

(代表質問)

質問日	令和5年11月30日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	公明党	議席番号	24	氏名	幸田 恵里子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 浜松から地方創生～地域特性を活かす	<p>令和6年1月1日、いよいよ本市が3区体制になり、新たな出発をする。中央区・浜名区・天竜区と各区が様々な特長を活かし、浜松をもっと元気に、浜松から地方創生を掲げて、何をもって今まで以上に浜松を活性化し元気にさせていくのかを、共に考え力を合わせて取り組んでいけたらと思っている。</p> <p>そこで、市長は新たな区の特長をどのように捉え、どのような区を目指していくのか。その実現に当たり、区政担当副市長に求める役割について伺う。</p>						中野市長
2 美食のまちづくり	<p>豊かな自然環境に恵まれた本市は、食資源の宝庫であり、それらのポテンシャルはサン・セバスティアンに負けないものと思ひ、それらを活かして街を元気にすることができるのではと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の豊富な食資源の魅力を最大限に活かすための取組として、「食と農の地域ブランド推進事業」を実施しているが、これまでの成果と今後について伺う。</p> <p>(2) 本市の魅力をPRする手段として、また観光客を呼び込むキラーコンテンツとして、豊富な食資源を有効活用するべきと考えるが、それらを活かした誘客やシティブロモーションの取組について伺う。</p> <p>(3) 食に関しては商業、農林水産業、観光など市内の複数の部署にまたがるが、サン・セバスティアンへの出張で得られた成果を、産業部として今後どう活かしていくのか伺う。</p>						清水農林水産担当部長 齊田観光ブランド振興担当部長 北嶋産業部長
3 ひとをもっと元気に～少子化対策 (1) 出会いの場	<p>(1) 内閣府による調査で、令和2年の未婚率(おおむね50歳頃の未婚率で把握)は男性が28.3%、女性が17.8%で、上昇傾向が続いている。また、令和4年版少子化社会対策白書によれば、独身でいる理由を尋ねると、男女ともに「適当な相手に巡り会わない」(男:45.3%、女51.2%)が最も多い。今必要なのは、相手に巡り会える機会を増やす取組である。</p> <p>他都市では年月をかけ、様々な事業に取り組む中、成果も出ており、どの都市も必死さが伝わる事業を展開している。</p> <p>そこで、本市も今一度、本気で結婚したい若者の思い</p>						吉積こども家庭部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) プレコンセプションケアについて	<p>に応える出会いの場を展開してほしいが、見解を伺う。</p> <p>(2) 妊娠のための健康管理(プレコンセプションケア)は、若い世代の男女の健康を増進し、より質の高い生活を送ること、若い世代の男女が将来、より健康になること、より健全な妊娠・出産のチャンスを増やし、次世代の子どもたちをより健康にすることである。健康はままつ21では、随所にこのプレコンセプションケアの言葉を盛り込んでいる。他都市ではプレコンセプションケア健診への助成制度の創設をしている自治体もある。</p> <p>そこで、本市の具体的な取組について伺う。</p>	平野医療担当部長
<p>4 ひとをもっと元気に～子育てを応援</p> <p>(1) (仮称) こども誰でも通園制度のモデル事業について</p> <p>(2) 親子連れの外出支援(こどもファスト・トラック)の考え方について</p>	<p>(1) 本市では、令和5年10月時点で0歳～2歳児の約5割に当たる約7500人が未就園の現況である。親が自宅で子どもと向き合い続けて疲弊したり、誰にも悩みを打ち明けられなかつたりする“孤育て”に陥る可能性が指摘されており、家庭内での虐待などの発見が遅れることも危惧されている。同制度を利用することで、親がリフレッシュしたり、保育士から助言を受けたりすることができ、孤立の防止につながり、また、集団の遊びの経験は発育への効果が期待される。</p> <p>そこで、本市における、(仮称) こども誰でも通園制度の実施についての考えを伺う。</p> <p>(2) 政府は、「こどもファスト・トラック」(特別な近道)の普及を推進している。子どもが訪れてみたいと思う様々な施設で親子連れが列に並ばず、優先的に入場できるようにする取組で、子どもがより楽しめる環境を整えるとともに、子どもと一緒に外出する際の親のストレスを緩和する一助となれば子育て支援にもつながる。</p> <p>そこで、本市における、こどもファスト・トラックの導入について伺う。</p>	<p>山名副市長</p> <p>吉積こども家庭部長</p>
<p>5 ひとをもっと元気に～やさしいまち浜松に</p> <p>(1) 障がい者自立支援協議会について</p>	<p>(1) 本市では、障がいのある人の地域生活を支援する協議会として「浜松市障がい者自立支援協議会」が設置され、障がい者への支援体制の整備を図るため、関係機関が相互の連携を図り、地域における障がい者への支援体制に関する情報を共有することで、関係機関の緊密化を図り、地域の実情に応じた体制の整備について協議されている。</p> <p>そこで、協議会から出された課題や各部会との連携に</p>	鈴木健康福祉部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) 高齢者の元気を応援	<p>ついて、以下伺う。</p> <p>ア 各区における支援者同士の研修や当事者の視点に立った体験を通しての学びなど、様々な検討部会が設置され議論されている。その内容とそこから得た課題解決に向けてどのような協議がされ、意見が活かされているのか。また令和6年に区割りが3区になるが、協議会のエリアも含めての体制について伺う。</p> <p>イ 児童発達支援事業所から学校への情報提供のツールとして、「サポートかけはしシート」の活用がされているが、現状と今後の活用について伺う。</p> <p>ウ 強度行動障害者の施設退所後や精神障害者の退院後の在宅における生活への支援体制について伺う。</p> <p>(2) 少子高齢化社会になり、高齢者への支援策がおろそかになっていると懸念される声も聞く。元気で経験豊富な先輩の方々の存在は大きく、私たち現役世代にとっても大切な存在となっている。そんな先輩に健康な生活を送ってもらうためにも、以下伺う。</p> <p>ア 高齢者への配食サービス事業者から、昨今の物価高騰で食材が高く、利用者には負担させられない中、委託料が上がらないことで、事業者の負担が増していると聞いている。</p> <p>そこで、現在の本市の取組と物価高騰対策として委託料増額への見解を伺う。</p> <p>イ 本市では、高齢者の健康維持と増進、介護予防の観点から、旧老人福祉センター時代より、市内のふれあい交流センター11施設に電位治療器が設置されている。しかし、大半が設置後30年以上経過し、使用中止や撤去、更には代替機で運用されている現状は、利用者の安全・安心のサービス向上の視点が欠落していると考えます。また、保守メンテナンスが令和6年度中で終了し、令和7年度から利用者へのサービス提供ができなくなる。</p> <p>そこで、使用困難となっている機器は早急に更新するべきと思うが見解を伺う。</p>	
<p>6 ひとをもっと元気に～やさしいまち浜松に</p> <p>(1) アウティング禁止の取組について</p>	<p>(1) 性的指向や性自認を本人の同意なく暴露する「アウティング」の禁止について、本年10月1日現在、12都道府県26自治体が条例で明記している。</p> <p>本市も、令和3年度に「浜松市人権を尊重し多様性を認め合う差別のない社会づくり推進条例案」について、パブリックコメントを実施し、アウティング禁止につい</p>	鈴木健康福祉部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(2) ペットとの共生に向けて</p> <p>(3) 職員のスキルアップに向けて</p>	<p>でも検討していると伺ったが、このアウトイング禁止の明示は周知や予防、被害を受けた場合の救済にもつながることから、大変重要と考える。</p> <p>そこで、本市におけるアウトイング禁止への取組と今後の方向性について伺う。</p> <p>(2) 近年、動物愛護に対する気運が高まる中、本市も第一種事業所となった動物愛護教育センターにおいては、予算・事業計画の立案や様々な役割を明確にする体制強化が必要である。そのような中で、現在、市民の相談対応は動物愛護教育センター及び保健所浜北支所の2か所でのみ行っており、市民からは「不便である」、「対応するまでに時間がかかる」、「どこに相談すればよいか分かりづらい」などの意見を聞くことがある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>ア 現在、動物愛護に関する事業において、動物愛護教育センター、保健所浜北支所、各区役所などそれぞれが行っている業務について伺う。</p> <p>イ 近年、野良猫問題や多頭飼育崩壊など、地域が抱える問題が発生している中で、市民にとって身近な区役所などに相談窓口が必要であると考えますが、見解を伺う。</p> <p>(3) 野良猫問題や多頭飼育崩壊などは様々な要因があり、動物愛護教育センターだけで課題を解決することは困難であると考えするため、関連する課に対する講座や勉強会などを開催し、広く職員のスキルアップを図るとともに、これらの問題の解決に向けたマニュアルを整備し、関係各課が連携して取り組む体制を整えるべきと考えがどうか伺う。</p>	<p>中村花みどり 担当部長</p> <p>〃</p>
<p>7 安全・安心なまち浜松に</p> <p>(1) 防災対策について</p>	<p>(1) 近年の気候変動による災害は、今まで経験したこともない雨量による河川や側溝の増水で、道路の冠水や住宅への浸水など、市民の安全・安心な生活が守られない状況が続いている。同じ地域でも被害の出方に違いもあり、何が要因となっているか、様々な検証が必要となっている。経験をしたことで、次への教訓として生かしていかなければならない。そこで、以下伺う。</p> <p>ア 近年の床上浸水や土砂災害など、今まで経験したことがない災害から得た教訓と、今後どのように生かしていくのか伺う。</p> <p>イ 夏期における猛暑の中、避難所での避難生活を送る上での対応策について伺う。</p> <p>ウ 本市では、食料・飲料水などの災害備蓄品を防災倉庫で保管しているが、その維持管理にデジタル技術を</p>	<p>石田危機管理 監</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) 災害時の下水道対策について	<p>活用したシステムを導入することへの見解を伺う。</p> <p>(2) 東日本大震災により甚大な被害を受けた仙台市へ視察に行った際に、下水道施設の被災による教訓から、下水道災害対策マニュアルの重要性、想定外の被害への認識、他都市からの支援の重要性について説明を受けた。</p> <p>将来、発生が危惧される南海トラフ巨大地震などにより、本市も同様の事態に陥ることが十分に考えられるが、本市における災害時の下水道の対策について、以下伺う。</p> <p>ア 地震による災害時における下水道の対策マニュアルの整備状況と、体制及び対応について伺う。</p> <p>イ 他都市及び民間事業者との連携状況や支援協定などについて伺う。</p>	内藤水道事業及び下水道事業管理者